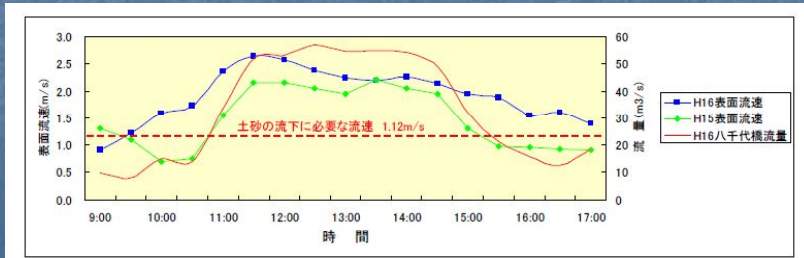
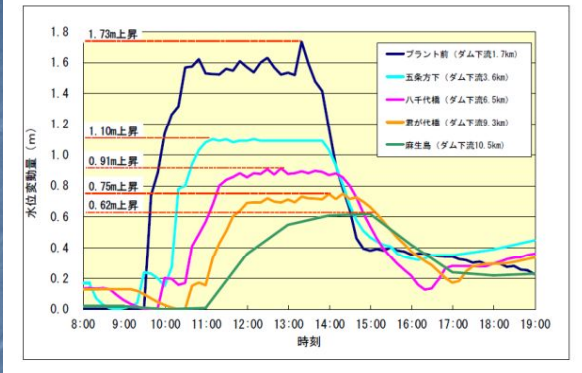


真名川ダムからのフラッシュ放流



九頭竜川水系真名川ダム

最大50m³/s程度

開始時(10m³/s程度)

終了時(15m³/s程度)

置土砂の粒径

置土砂の側岸侵食状況

通過質量百分率 (%)

粒径 (mm)

- 試料A: 採取地
- 試料B: 採取地
- 試料C: 設置土砂

大野 真名川ダム、フラッシュ放流 藻類はく離を検証

国土交通省近畿地方整備局九段川ダム総合管理事務所は十五日、大野市下若生子の真名川ダムで弾力的管理試験「フラッシュ放流」を実施。流水だけでなく流砂による付着藻類の剥離効果も初めて検証した。

「フラッシュ放流」はダムの空き容量の一部を利用して計画的に貯水。これを一気に排出して川底の汚濁などを洗浄。自然の川に近づける。同ダムでは昨年九月に続いて二回目。

午前九時から放流を開始し約五時間かけて最高毎秒四十五と前回より約二倍の量を放流。中間地点の大野市御給の

八丁式構付に砂二百立方メートルの弾力的管理試験委員会の協力の下、流水のみならず、流砂の力を加えて、今後の管理試験に反映し、将来の本格的な運用につなげていく。

流砂による藻類剥離効果も検証したフラッシュ放流
＝大野市御給の真名川



真名川のフラッシュ放流

ダム、自然共生を探る

人工的に洪水泥や古い藻流す

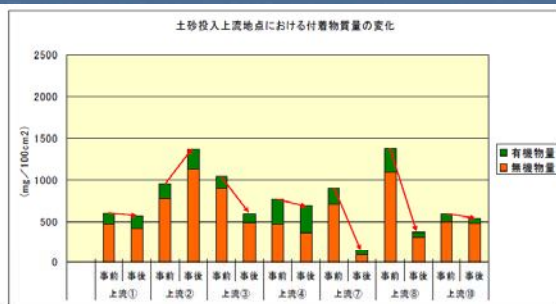
魚すむ環境改善期待

福井新聞
2004.11.16

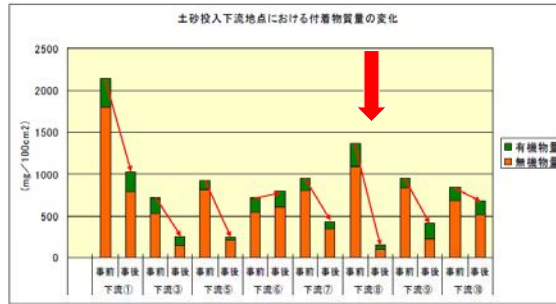
福井新聞
2005.3.7

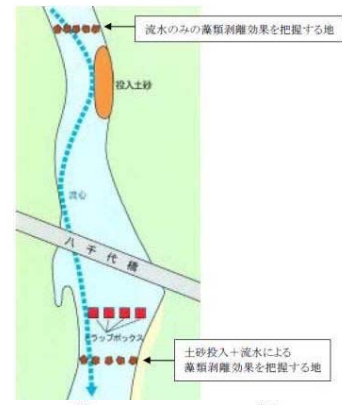
砂の流下による藻類の剥離効果

土砂投入上流地点における付着物質質量の変化



土砂投入下流地点における付着物質質量の変化






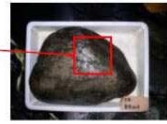
流水のみの藻類剥離効果を把握する地

投入土砂

八丁代橋

フラッシュボックス

土砂投入+流水による藻類剥離効果を把握する地

付着藻類の剥離更新が顕著
(置き土砂下流⑧)

置き土砂下流が50%以上